

# 前期再編前後の規模別・地区別配置の変化

資料1-2

全日制	H21年度				全日制	H22年度					
	高校名					高校名					
学級数	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区	学級数	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区		
8学級					8学級		富山工業 (工8)				
7学級		富山 (普6理1)	高岡 (普6理1)		7学級		富山 (普6理1)	高岡 (普6理1)	南砺福野 (普5農1福1)		
		富山中部 (普6理1)					富山中部 (普6理1)	高岡工業 (工7)			
							富山商業 (商7)	高岡商業 (商7)	氷見 (普4農水1商1家1)		
6学級	魚津 (普5理1)	富山工業 (工6)			6学級	魚津 (普5理1)	富山東 (普6)				
5学級		富山商業 (商6)			5学級	滑川 (普3工1商1家1)	呉羽 (普6)				
	桜井 (普3工1家1)	富山いづみ (総4看1)	高岡工業 (工5)	砺波 (普4理1)		入善 (普4農1)	富山いづみ (総4看1)	新湊 (普4商1)	砺波 (普4理1)		
	滑川 (普3工1商)	富山東 (普5)	高岡商業 (商5)	南砺総合福野 (普4農1)		桜井 (普3工1家1)	富山北部 (普3工1商1)	高岡南 (普5)	砺波工業 (工5)		
4学級		呉羽 (普5)	氷見 (普4商1)		4学級	雄山 (普4家1)	富山南 (普5)				
	入善 (普3農1)	八尾 (普4)	新湊 (普3商1)	砺波工業 (工4)		魚津工業 (工4)	八尾 (普4)	小杉 (総4)	石動 (普3商1)		
	上市 (総4)	富山西 (普3工1)	高岡南 (普4)			上市 (総4)	富山西 (普4)				
	雄山 (普3家1)	富山北部 (普2工1商1)									
3学級		富山南 (普4)			3学級						
	泊 (普3)	中央農業 (農3)	小杉 (総3)	南砺総合井浜 (普1福2)		泊 (普3)	中央農業 (農3)	大門 (普3)	南砺総合福光 (普2国1)		
	魚津工業 (工3)	大沢野工業 (工3)	大門 (普3)	南砺総合福光 (普2国1)				高岡西 (普3)			
	海洋 (水3)		高岡西 (普3)	石動 (普2商1)				伏木 (国3)			
			伏木 (国3)					福岡 (普3)			
2学級			有磯 (普1農1家1)								
1学級			二上工業 (工2)								
規模数別学校数					規模数別学校数						
	8学級					0	8学級				1
	7学級					3	7学級				8
	6学級					3	6学級				4
	5学級					10	5学級				11
	4学級					11	4学級				6
	3学級					14	3学級				7
	2学級					1	2学級				0
1学級				1	1学級				1		
学級数					178	学級数					189
学校数					43	学校数					38
平均学級数					4.1	平均学級数					5.0
3学級以下の学校数					16	3学級以下の学校数					8

平成28年度の県立高校（全日制）の規模別・地区別配置状況 資料1-3

学級数/学年（学校数）		新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区
8学級	(1)		富山工業 (工8)		
7学級	(6)		富山 (普5探2)	高岡 (普5探2)	
			富山中部 (普5探2)	高岡工芸 (工7)	
			富山商業 (商7)	氷見 (普4農水1商1家1)	
6学級	(6)	滑川 (普3工1商1水1)	富山東 (普6)	高岡商業 (商6)	南砺福野 (普4農1福1)
			富山南 (普6)		
			呉羽 (普6)		
5学級	(6)	桜井 (普3工1家1)	富山北部 (普3工1商1)	高岡南 (普5)	砺波 (普5)
		魚津 (普5)	富山いずみ (総4看1)		
4学級	(11)	入善 (普3農1)	八尾 (普4)	小杉 (総4)	砺波工業 (工4)
		魚津工業 (工4)	富山西 (普4)	新湊 (普3商1)	石動 (普3商1)
		上市 (総4)	水橋 (普4)		
		雄山 (普3家1)			
3学級	(7)	泊 (普3)	中央農業 (農3)	大門 (普3)	南砺福光 (普2国1)
				高岡西 (普3)	
				伏木 (国3)	
				福岡 (普3)	
2学級	(0)				
1学級	(1)				南砺平 (普1)
募集停止	(0)				
学級数	182	35	72	52	23
平均学級数	4.8	4.4	5.5	4.7	3.8

# 「県立学校整備のあり方等に関する報告書」(案)に対する県民からの意見

## 1 意見の数 27人

### 2 意見の概要

#### A 報告書(案)に賛同いただいたもの(17人)

- 再編は、生徒たちの将来を考えて、県の提唱する規模の高校とすることが望ましい。
- 小規模校では、学習活動・学校行事・部活動の面で、多くの生徒や教員と出会い、共に学び、共に参加し、共に競り合うことが、今の子供たちになくなく、可哀想なところが多くある。
- 高校では、様々な考えを持つ多くの友達と、語り合い、励まし合い、時には傷つき、苦しみを分かち合う、そういった経験がとても重要である。
- 生まれ育った地域の小・中学校を卒業した後、高校では、県内の広い地域から集まる生徒たちの中で、学習や部活動を行い切磋琢磨することが、社会の中で生きていく力を育てることにつながると思う。
- 前期再編は成功しており、後期再編の道筋も明らかになったことから、一日も早く後期再編に取りかかりたい。
- 母校や地域の学校が無くなることは大変寂しいことである。しかし、適正な規模の学校で学ぶことは最終的に生徒達の利益となる。我々大人の幅広い視野での客観的で冷静な判断力が試されている。
- 地域の状況もある程度考慮は必要だろうが、これからの時代を支える子どもたちの将来のことを考えれば、「今何をすべきか」は明らかである。

- 地域にとつて唯一の高校という場合、地域住民、特にその高校を卒業された方々にとつては、統廃合は大変大きな問題かもしれない。しかしながら、第一に考えるべきは、すでに卒業した我々の心情ではなく、これからの生徒がよりよく学べる学校環境だと考える。

#### B 報告書(案)に賛同いただいた以上で、提案もいただいたもの(5人)

- 再編を進める際には、同窓会や地域住民等に理解を得ながら慎重に進める必要があるかと思う。
- 再編統合では地域性を十分考慮し、通学時間が大幅に増加する生徒数をできる限り抑制してほしい。

高校再編を進める際には、市町村と協議するとともに、再編に関する情報を地域住民や保護者に的確に伝え、理解を得ながら慎重に進める必要がある。(p41)

全ての生徒にとつて、通学可能な地域内に、その進路希望に合った高校をバランスよく配置していく視点が必要である。(p41)

- 総合学科は、配置学校数を減らし、1学年学級数を増やすことで設置の趣旨が活かされることを望む。

総合学科の配置については、全県的な視野に立って、県東部と県西部に各1校、総合学科のある学校を配置することが望ましい。この場合、学級数は一定規模が確保されることが必要である。(p34、35)

- 南砺平高校は、地理的な面で特殊で、郷土芸能で日本一になっており、小規模だからとすぐに再編しないでほしい。

全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情(職業科単独校、地理的な制約)がある場合は、対象としない。(p36)

- 中学生の進路希望に合った学科をバランスよく配置してほしい。

全ての生徒にとつて、通学可能な地域内に、その進路希望に合った高校をバランスよく配置していく視点が必要である。(p41)

- 中核となる高校に教育資源を集中すべきだと思う。

全ての生徒にとつて、通学可能な地域内に、その進路希望に合った高校をバランスよく配置していく視点が必要である。(p41)

C 報告書(案)に異論をいただいたもの(5人)

- 再編の必要性を感じつつも、私の住む砺波地区で今後、学校数が減っていくと、地域の発展に水を差すのではないかという心配もある。普通科はもちろん、職業系専門学科の工業科、商業科、農業科等の核となる学校・学科も、各地区の状況に応じて残してほしい。

高校再編を進める際には、市町村と協議するとともに、再編に関する情報を地域住民や保護者に的確に伝え、理解を得ながら慎重に進める必要がある。(p41)

- 南砺福光高校の充実、本県の地域社会の発展・活性化を支えていることを十分理解願いたい。

高校再編を進める際には、市町村と協議するとともに、再編に関する情報を地域住民や保護者に的確に伝え、理解を得ながら慎重に進める必要がある。(p41)

- 南砺福光高校は、ビームライフル競技で活躍している唯一の高校である。その灯も消さないでほしい。高校がなくなって、地域の元気がなくなっていると聞く。地域の意見もしっかり聞いてもらいたい。

高校再編を進める際には、市町村と協議するとともに、再編に関する情報を地域住民や保護者に的確に伝え、理解を得ながら慎重に進める必要がある。(p41)

- 新川地区の高校再編に関して、「難関校をめざして進学したい」「上級学校に進学したい」「卒業後はすぐに就職したい」「部活動で全国大会を目指したい」などの生徒の希望が生かされるような再編も検討してもらいたい。

全ての生徒にとって、通学可能な地域内に、その進路希望に合った高校をバランスよく配置していく視点も必要である。(p41)

- 3学級以下で競争相手が少ないから生徒ががんばらなければならないのは机上の空論であり、「切磋琢磨」という表現を削除すべきである。

前期再編により、本県の全日制高校における学校規模が確保され、学習活動、学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨できる教育環境が整備された。(p9)

- 普通科に併設する1学級の職業科に何の不都合もない。

普通科に併設された1学級の職業科については見直すことが望ましい。ただし、特別の理由から、その必要性が高い場合は、当面存続することが望ましい。(p33、34)

- 総合学科を減らす必要はない。

総合学科の定員割合については、県立高校全日制の全募集定員に占める定員割合が高くなってきていることや、普通科など普通系学科に対するニーズが高いことなどを踏まえ、その割合を見直すことが望ましい。(p32)

- 「3学級以下の学校についても機械的になくすのではなく、慎重に検討しつつ、4から7学級とすることを目指し」に変える。

○各都道府県が設定する公立高校における「望ましい学校規模」(富山県除く)

